パセノポ イヤイライケレ（本当に有難うございます）

平成27年4月3日付消印の1通の四角い封筒が届きました。差出人 鶴雅グループ株式会社阿寒グランドホテル代表取締役大西 雅之。さっそく開いて見ますと、創業60周年記念式典の案内でした。私はとても嬉しい気分になり、すぐに出席の返信葉書を投函しました。

振り返ると昭和29年秋、私の家族も含め、4、5軒が家を建て、コタンに移り住みました。翌年から少しずつ家族が増え始め、現在のアイヌコタンが形成されてきました。案内状には、昭和30年阿寒グランドホテルは阿寒湖温泉を出発点に、今の鶴雅グループに至っているという事ですので、アイヌコタンと同じ時代を歩んできたことになります。

当時のコタンは、電気も水道もなく、ランプの灯りを頼りに、飲み水も川の水を汲んだり、沢の湧き水を利用していました。鶴雅前のコタンに通じる栄橋もなく、開発横の白湯橋もなく、2本の、丸太が渡してあるだけで、恐る恐る通ったのを覚えています。

グランドホテルの建設が始まった時、基礎に使う砂利や石を運ぶのをコタンの人達と一緒に私の父も手伝ったと聞いたことがあります。その後のグランドホテル、町の人達とコタンの関わりについては、自分達の生活基盤を築くのに精一杯で、今年で66回目を迎えるまりも祭りなどで協力する以外、それほど深いものではなかったような気がします。

大西社長が昭和56年26歳で阿寒に戻り、平成元年、33歳で社長に就任した頃から、少しずつ協力体制が構築され、平成10年第1回イオマンテの火まつりが開催された頃には、それは強いものになり現在に至っております。社長になる前、相当困難な時代もあったと聞いておりますが、社長就任後、大胆な方針転換、ホテル改革に取り組み、平成18年、国から観光カリスマに認められ、平成20年北海道で初めてサービス全国1位に輝き、平成22年には、第1回観光庁長官表彰受賞と素晴らしい実績を残しております。

大西社長は、NPO阿寒観光協会まちづくり推進機構の理事長に就任してからも、阿寒湖温泉のブランド化を第一に、まちづくり・宿づくりに、北海道観光、阿寒湖温泉の広報マンとして活躍しています。とりわけアイヌ文化に大きな理解をいただき、ホテル内にアイヌ装飾を取り入れ、制服にもアイヌ刺しゅうを入れ、お客様にアイヌ文化を紹介し、喜んでいただいております。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災、観光で生きる我々にとって、これ以上の辛い経験はありませんでした。阿寒アイヌ工芸協同組合の収入は激減し、給料の支払いにも困った時、助けてくれたのは、鶴雅の古式舞踊入場券のまとめ買いでした。本当にありがたく、今でも忘れることができません。

この度、創立60周年を祝うハレの式典にご招待いただきまして、本当に有難うございます。この60年、先代社長をはじめ、大西社長、経営陣の皆様、社員の皆様のこれまでのご苦労に対し、心より敬意を表し、今後とも、ますます御社の発展と皆様方のご活躍を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

本日は誠におめでとうございます。パセノポ イヤイライケレ（本当に有難うございます）

阿寒アイヌ工芸協同組合
代表理事
西田 正男氏

お祝いに代えて

阿寒グランドホテル様の栄えある60周年、本当におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

私はアイヌ文化を専門としておりますが、鶴雅さんのアイヌ文化への関わり、なかでもアイヌアートをインテリアベースとする「レラの館」の存在を知ったのは、恥ずかしながらようやく2008年になってのことでした。ホームページを開いた途端、「アイヌアートをこんなにも洗練された空間として実現している場があったのか」と大きな衝撃を受けたのを、今でも覚えています。その「レラの館」に念願かなって宿泊できたのは翌2009年の夏。すでにこの時、札幌大学ではアイヌの若者たちに奨学金を給付し、アイヌ文化の担い手として育てるためのウレシパ・プロジェクトの創設が決定しており、私は学生たちを共に育ててくださる志の高い企業さんを必死で探していました。初めて鶴雅さんを満喫し、そこかしこに香り立つアイヌ文化をリスペクトする空気に心底感動した私は、意を決して、お目にかかったこともない大西社長様にお電話を差し上げたのです。それが私の阿寒湖通いの始まりでした。

阿寒湖ではアイヌコタンの方々のご努力により、アイヌシアター「イコロ」の建設、人形劇の立ち上げなど、アイヌ史上エポックメイキングな事業が次々に創出されています。それらすべてをしっかりと支えてこられたのが、大西社長様と鶴雅さんでした。折りしも、2008年、日本政府はアイヌ民族を日本の先住民族として認め、内閣官房にアイヌ総合政策室が設置されました。内閣官房長官を座長とするアイヌ政策推進会議が開設され、大西社長様はその委員も務められています。2020年のオリンピックには、世界中の人々がアイヌ文化に注目することでしょう。このように大きな転換の時代、大西社長様を導きの糸とすることができたことを、私は心から幸いと思っております。

アイヌ文化では、6は「多い」という意味を有する特別な数であり、ましてや60は圧倒的に多くの数を意味します。60年という圧倒的な歳月を糧とされ、次なる高みを目指し、益々ご発展されますことを心よりご祈念申し上げます。

札幌大学 副学長
本田 優子氏